

1. 基本情報

渡航先国名・地域名 (☆)	カナダ
滞在都市 (☆)	バンクーバー
留学先大学等名 (☆)	ブリティッシュ・コロンビア大学
留学先での所属学部/研究科 (☆)	商学部
留学先で主に使用した言語	英語
渡航先への入国日 (☆)	2017年9月2日
渡航先からの出国日 (☆)	2018年4月26日
渡航先国での滞在期間 (☆)	8カ月間
同伴者の有無・続柄・年齢等	なし
その他	

2. 留学先の大学に関する情報

2. 1 授業に関する情報

履修科目名称	Managing the employment Relationship
履修期間	2017年9月～2017年12月
授業時間 (○分×△回)	90分×26回
授業形態 (講義・セミナー)	講義 (e-learning)、グループワーク
取得単位数	3単位
履修科目名称	Introduction to Management Information Systems
履修期間	2017年9月～2017年12月
授業時間 (○分×△回)	90分×23回
授業形態 (講義・セミナー)	授業
取得単位数	3単位
履修科目名称	Managerial Economics
履修期間	2017年9月～2017年12月
授業時間 (○分×△回)	90分×24回
授業形態 (講義・セミナー)	講義
取得単位数	3単位
履修科目名称	Introduction to Finance
履修期間	2018年1月～2018年4月
授業時間 (○分×△回)	90分×21回
授業形態 (講義・セミナー)	講義
取得単位数	3単位

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

履修科目名称	Information Systems Technology and Development
履修期間	2018年1月～2018年4月
授業時間（○分×△回）	180分×12回
授業形態（講義・セミナー）	講義、グループワーク
取得単位数	3単位
履修科目名称	Introduction to e-business
履修期間	2018年1月～2018年4月
授業時間（○分×△回）	90分×23回
授業形態（講義・セミナー）	講義、Lab、グループワーク
取得単位数	3単位
履修科目名称	Introduction to Social Justice
履修期間	2018年1月～2018年4月
授業時間（○分×△回）	90分×13回
授業形態（講義・セミナー）	講義
取得単位数	0単位
留学生（日本人）の割合	留学生数はかなり多く3～4割ほど。正規留学の日本人は全体の1～2%ほど
成績評価の方法（試験・課題の数や分量等）	授業によるが、平常点（提出課題や授業中の発言に基づく）と試験の点数が半分ずつぐらい反映される。
履修科目の制限等（あれば）	交換留学生が単位修得できるのは1学期あたり12単位まで。
（英語圏以外の場合） 英語の使用頻度、英語での授業科目の充実度等について	
語学に関するサポート（特別授業、チューター、ライティングに関するサポート等）	Tandem partner という語学交換が盛んに行なわれており参加した。English writing のサポートは商学部の図書館で受けられる。
授業内での留学生に対するサポート等	特になし。
その他	

2. 2 福利厚生に関する情報

大学内での福利厚生施設（生協・購買・食堂）について	キャンパスのいたるところにカフェや食堂、売店がある。値段は町で食べるのと変わらないか少し高い。
図書館について	各専攻ごとに大きな図書館。24時間オープンのものもある。
保健センター等の有無	不明だが寮に毎週看護師が訪問しているので相談できる。
クラブ・サークル等について	何十個もあり留学生でも参加できる。運営者以外は行きたいときに行く、というようなカジュアルな集まり。

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

留学生へのサポート	International House はいつも開いており、商学部の担当者 と連携をとりながらサポートしてくれた。
オリエンテーション等学校主催の行事について	初日に Imagine day というオリエンテーションがあり友達を作れた。
現地の学生との交流について	授業内やクラブ、寮で交流。ぽーんと放り込まれるので自分から仲良くなりにはいかないと厳しい。
他の留学生との交流について	Imagine day や寮のイベントで仲良くなった。交換留学生とともに過ごすことが多かった。
学外での活動について(地域コミュニティ活動等)	
長期休暇中の過ごし方	12月末と2月末に、1週間~10日ずつ休みがあるので留学生の友人と旅行した。
その他	

3. ビザ・入国・渡航直後の手続きに関する情報

ビザの種類(☆)	Study Permit
ビザの取得手続きについて(申請方法、申請から取得までの所要期間等)(☆)	オンライン上で申請。申請後1週間ほどで発行。
利用航空会社	ANA
入国の際の現地空港名	バンクーバー国際空港
空港から滞在先への移動について(交通手段や所要時間)	バスで移動 1時間程度
入国審査について(提示した書類、審査官からの質問等)	Study permit、Letter of acceptance 聞かれたのは氏名くらい。UBC 生が一気に入国する日だったので2時間くらいかかった。
渡航後の手続き(在留届の提出、外国人登録等)	オンラインで在留届の提出
その他	

4. 金銭に関する情報

奨学金の受給	<input checked="" type="radio"/> 無
奨学金名	全学交換留学派遣プログラム immersion Exchange Program Osaka (iExPO)
奨学金月額受給額(円)	80,000円
入国時に用意した金額	現金300ドルと自分の預金60万円ほど

クレジットカードについて(カード会社名・日常の利便性)	ライフカード(Mastercard)を利用。海外利用分の5%をキャッシュバックするキャンペーンがあったので利用。現地デビッドのほうが決済スピードが速かったので後半はデビッドを利用した。
留学中に利用した銀行名	CIBC
現地での銀行口座開設について(開設の有無・手続き等)	学生向けの月会費無料のプランにした。開設も閉鎖も即日。
デビットカードの使用について	CIBCのデビットカードを使用した。
日本からの送金方法について	日本の銀行口座に振り込みしてもらい、クレジットカードで決済。ほぼ現金は必要ないので必要時にキャッシング数回する程度で済んだ。
1ヶ月の生活費(目安)	10万円
その他	現地でアルバイトをしたので口座開設の必要があった。

5. 暮らしに関する情報

5. 1 住居に関する情報

住居の種類(学生寮(一人部屋・二人部屋)・アパート等)	学生寮(トイレ・キッチン・風呂場を6人で共用、寝室は個室)
家賃	月約8万円
住居を探した方法・時期	5月上旬にUBCのSHHCという期間のウェブサイトから申請
荷物の運搬方法 (ハンドキャリー、国際宅配便(会社名、プランも)等)	行き飛行機の預け入れ手荷物、家族から送ってもらった際は日本郵便から送ってもらった。
その他	

5. 2 食生活についての情報

普段の食事(自炊・食事つき学生寮等)	基本的に自炊。昼食は学内のカフェテリアやアルバイトのまかないを食べた。
1ヶ月の食費	3~4万円程度
その他	総じて外食は高い。

5. 3 その他日常生活に関する情報

電話について	SIM フリースマートフォンを持ち込み、現地のプロバイダーFidoのSIMカードを契約。
インターネットについて(Wi-Fi環境等)	Fairviewは無線Wi-Fiがそのまま使えるが、私のいたWalter Gageは有線LANしかなく現地で無線ルーターを買う必要があった。
コンピューターについて	授業にパソコンは必須。毎日持っていったので携帯性の高いものだとおよい。

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

郵便について	Canada Post のオフィスがキャンパス内にあるので便利。
交通機関について	バス、電車が充実している。定期券を強制購入するのでかなり使い倒した。
治安について	基本的にかなり良いが、キャンパス内の盗難や、ダウンタウンの軽犯罪は多い。
保険について	クレジットカード付帯と OSSMA 付帯のものに加入。
医療機関・薬について	学校の近くに日本語の通じるところはない。キャンパス内に複数病院があるので人に聞いて使い分けるとよい。
気候と服装について	9 月・4 月のみ心地よくあとは雨・寒さ。寒さは日本の東北地方くらいのイメージ。そこまで厳しくはないが日照時間がかなり短くなるので精神的によくはない。
普段の買い物について	食品・日用品はキャンパス近くのスーパー。服などはダウンタウンに出ている。
娯楽・行事について	週末はいたるところでクラブイベントやパーティー。自然の多い地域なのでハイキングやスキーが盛ん。
日本語の使用について	授業や生活は完全に英語。とはいえ日本人留学生は多く、コミュニティが大きいので日本人に依存していても生きていけてしまいそう。
日本から持参して特に役立ったもの/持参したら良かったもの	薬や健康食品。就活関係の書籍。日本食（手に入るが 3 倍くらいの値段がする）
留学前にしておいて良かったこと/しておけば良かったこと	英会話の勉強。国内旅行。留学前に会いたい人にあつておくこと。家族とよく話をする事。
その他	

6. 就職活動に関する情報

留学前の就職活動について(セミナー参加、自己分析、業界研究、就活サイト登録等)	インターン、企業研究
留学中の就職活動について(海外からの情報収集、企業へのコンタクト、インターシップ等)	ボストンキャリアフォーラムに参加し内定取得。その後も必要に応じ Skype で OB 訪問。3 月以降はオンライン上でエントリーやテスト受験をして国内での活動に備えた。

7. 語学の学習方法について

留学前に準備したこと、語学能力試験対策等	学内の英語学習会に参加していた。IELTS の対策は独学で数か月。
----------------------	-----------------------------------

留学中の学習方法、工夫したこと等	友人と話すことはもちろん、強制的に話す機会を持つために tandem や English Corner などの企画に顔を出していた。
留学後にどれぐらい語学力が伸びたか（主観的な実感や具体的なスコア等）	要旨をきちんと伝えるディスカッション力がついた。スラングなども生活の中で自然と身に着いた。

8. その他

留学して得られたこと	自分の特長や考え方の性向がわかった。ストレス耐性が強まった。
留学中に困ったこと	娯楽が少ないので気分転換が難しかった。何をするにも物価が高く、奨学金が出なかった期間のストレスが大きかった。
留学前/留学中に参考になったウェブサイト等	JP Canada

9. 留学体験談・エッセイ（様式任意）

留学を決めた理由、現地で履修した授業およびその感想、楽しかったこと、大変だったこと、これから留学を考えている後輩へのメッセージ等を1～2ページ（様式任意）で記載してください。また、留学中に撮影した写真数枚（本人も映っているもの）も合わせて提出してください（国際交流室のHPやNewsletterに掲載させていただく可能性があります）。

私は4年の後期からという遅めのタイミングで交換留学に行きました。もともと海外に出ることに興味があり、語学留学も経験しましたが、わざわざコストや手間をかけて阪大を出て学びたいと思えるほどの学問があると思えず、人より遅い時期になってしまいました。そんな私が留学を決意したきっかけは、とあるベンチャー企業でのインターンシップです。米国のスタートアップ企業について調べ、未来予測をするという内容で、英語を駆使して世界中のウェブサイトから情報を集め、ビジネスチャンスを掘り出すことを考える過程に、自分の英語力が世界観を大きく広げるし、世界には面白いビジネスがたくさんあることに強く興味を持ちました。同時期に留学経験者の友人に刺激を受けたことも重なり、3年生の夏から留学準備を始めました。

ITビジネスに興味があった私は、IT先進都市バンクーバーのブリティッシュ・コロンビア大学を選びました。カナダの文化的多様性に触れたいという思いもありました。現地では経営学、特にビジネステクノロジーマネジメントという分野を中心に学びました。Tableauやチャットボット、ブロックチェーンなど実際のビジネスの場で使われている最先端のツールを使った実習や、世界中のビジネス事例についてグループでディスカッションするアクティブラーニングが活発で、主体性を持って学ぶことができました。もともとインターンシップの経験から、進歩が目覚ましいIT分野では、日本語に翻訳されるのを待っているのでは遅く、英語の情報をリアルタイムに取りに行けるようになることが不可欠だと感じていましたが、まさに英語を駆使して世界中の事例やツールから学び、多様なバックグラウンドの学生たちと学びを深める経験ができ、たいへん価値あるものだと感じな

がら取り組んでいました。

休暇には留学生の友人らと、旅行をしたり、スキーなどのアクティビティを楽しんだりしました。留学6か月のときにスイス、韓国、日本からの交換留学生とアメリカ旅行をした際が印象的でした。バンクーバーに適応しようと懸命に生きている最中の友人同士で、アメリカという隣国を見に行くと、すでに「カナダ的」な視点を持ってアメリカを見ていることに気が付きました。具体的には、異文化への寛容さ、客と店員間の敬意、資源を大切に消費する消費姿勢、という観点で共通の「カナダ的」志向をすでに持っていたのです。8か月という短い期間ながらも、自分たちの中に確かにカナダのアイデンティティが生まれ、生まれ育った国とは違う視点を得ていることがわかりました。

カナダの特色として、あらゆる人種・志向の人を受け入れようとする基本的な姿勢があります。キャンパス内にジェンダーフリーの施設がたくさんあるのも興味深い風景です。前述の「カナダ的アイデンティティ」の話と矛盾するようではありますが、先住民と移民で出来上がった、比較的歴史の浅いカナダは、多様な文化や価値観が混在している国で、全員が一律な価値観を持っていません。自分のありたいようにあれるし、いろいろな人と交流する機会にあふれている一方、甘んじて日本人コミュニティの中だけでも生きていけるような環境があります。交換留学中は、一人も知人のいない中、どんな授業をとるか、余暇を何に費やすか、どんなコミュニティに身を置きたいか、すべて自分の価値観を問いつながりながら過ごしていました。大変だったことを1つ挙げるならば、この「自分との問い」を永遠にしなければならぬことです。流されてもやっていける日本の大学生活とは一変して、常に考え続ける8か月でした。

私は留学に行くまでかなり迷っていましたが、本稿をお読みの方にも留学を迷っている方がいるかもしれません。4年次で8か月の留学を終え思うのは、留学は大きな挑戦ではあるが、留学先ですることにはよくも悪くも大学生活をするだけということです。というのは、自分は何をやりたいのか問い続けて全力で活動していれば、外国でも日本でもエキサイティングな経験はどんどんできるということです。4年次で行ったからこそ、日本でゼミやインターン、趣味に打ち込んだ経験をしたあとで行ってよかったなと思える瞬間はたくさんありました。留学してみて、環境のよいキャンパスで、意欲的で様々なバックグラウンドを持つ学生とともに学ぶのはとても刺激的で、せっかく授業料を払い単位をとるのであれば大阪大学以外の環境で勉強するのも価値の高い経験ができますし、その後の学生生活での動き方に必ず変化があるはずです。ぜひ、人生を豊かにする経験のひとつとして、留学を検討してみてほしいと思います。